

「教育の力」発信事業

# 湖国の親子へ贈る言葉

く今、子どもと向き合うあなたへ贈るメッセージく

おかあさん

誰と比べているの？

速く走れなくても、

上手に絵が描けるかもしれない。

ご飯を食べるのが遅くても、

服を着替えるのは早いかもしれない。

字を覚えるのが苦手でも、誰かの悲しい心に

光を灯せるかもしれない。

「できない」ことを見ずに

「できる」ことを見て。

「できない」と決めず

「やってみる」を見守って。

そして子育ても

「もう無理」なんて言わず

「やれたこと」に感謝しよう。

三十才 女性

夢

声が出た 笑った 寝返りした

食べた 立った 歩いた 成長の感動

イライラ ガミガミ かなしくなる

自分の時間がほしい ダンナへやつあたり

寝不足・・・

毎日泣きながら頑張っている私

ふと 我に返る夜中 一人の時間

子供の寝顔

願って手に入れたこの幸せ

夫と子供二人と犬と私

人生のきらめいた夢の中にいるみたい

さあ！ 明日も笑顔で頑張るぞ！

三十一才 女性

## 祖母のおまじない

「どおってことあらへん、だんないほん。」  
久々に思い出した祖母の言葉を声に出してみた。

膝をすりむいた娘は少しずつ泣くのをやめた。でも、逆に私の目には涙があふれてくる。なんでやる。誰かが肩をポンポンとしてくれているような心地がする。肩に入りすぎている力が一気に抜けた。いつもは意識してないつもりだったけど、娘の発達が平均よりも遅れていることに私の心がこんなにもとらわれていたなんて……。そんな自分に驚いた。

もう一度唱えてみる。怪我した娘はもうニコニコ笑顔だ。私の心も静まり、元気が戻ってきた。娘に唱えたはずのおまじないは、私の心をずっとずっと安心させてくれた。ふっと心を解き放ってくれるこの言葉を、エールとともに贈りたい。

## 一人で子育てしているんじゃない

「お母さん、ドンと構えましょうよ。」  
担任の先生がおっしゃった言葉です。

娘が小学校に行かなくなり、空っぽのランドセルを見ながら、私は母親として落第点を言い渡されたような気がして落胆しました。  
担任の先生は、「○○さんは大丈夫。」と、一貫して娘を信じて支えてくださいました。  
当時私は、娘のために一生懸命になるあまり、転ばぬ先の杖になろうとしてしまっていました。そんな私に、娘を信じてそっと見守ることを、先生は気づかせてくださったのです。

一人で子育てしているんじゃない。家族、学校、地域、みんなが一緒に育ててくださっている。そして、自分も母親として育てていただいている。安心して子育てができることに心から感謝です。

お母さんにしてくれてありがとう

私は、お母さんになってまだ十一年目です。「子育て」というより、子どもたちに「お母さん」を成長させてもらっていると日々感じています。子どもが大きくなるように、私も一年一年「お母さん」としての体験を増やしてもらい幸せです。

立派なお母さんかと言われるとそうではないですが、子どもたちが居てくれるからこそその発見や感覚を多く感じ取れると良いなと思っています。

そうはいつでも、仕事で疲れてかえってくと慌ただしくなってしまう、ゆとりをもって接することができず後悔することも度々ですが……。保育園の頃、お迎えが最後になってしまったにも関わらず、「お母さん見て！太陽がこぼれちゃうよ。」なんて、逆に癒してもらったり、子どもって天才ですよ。

## 存在の価値

現在、四九歳の私は、二五歳の時、目の難病により、失明しました。失業し、生きる希望を完全に失いました。毎晩、布団の中でよく泣きました。そんな私を見て、母が次のように言ってくれました。

「目が見えないために何かができなくても、あんたはかあちゃんの宝だよ。」

私はこの言葉にとても元気づけられ、失明後、大阪府立盲学校ではり灸マッサージの免許を取得し、それから、筑波大学へ進学し、盲学校理療科教員免許を取得して、滋賀県立盲学校に再就職が許されました。盲学校勤務も今年で二〇年目を迎えました。私の能力ではなく、私の存在を宝だと言ってくれた母の言葉があった故に今の私があります。

輝く自分になろう

あなたは、自分のことが好きですか？

自分のいいところを見つけようとしていますか？

自分のいいところ、自分がいやだなあと思うところ、

みんな丸ごと引ってくるめて、自分のことが好きですか？

自分のいいところを見つけようと思えば、きつと

わが子のいいところが見つかることでしょう

そして、わが子のいいところ、いやだなあと思うところ、

みんな丸ごと引ってくるめて受け止めることができたなら

そうすればきつと

わが子の成長とともに輝きが見えることでしょう

そのとき、きつと自分も輝いているはずですよ

そして、気づくはずですよ

わが子の輝きに自分が照らされていることを

自分の輝きがわが子を照らしていることを

子どもの心を見つめながら

高二、中三、小四の三人の子どもの親として、日々子育てに格闘している。長女が授かったときに、

「子どもの帰れる港になりなさい。」

と知人に助言され、その言葉を子育ての極意と信じて頑張っている。

子どもの体の成長や技能の発達は目に見えるから分かりやすい。だが、心の有り様や成長は、親の想像力が豊かでないと見えにくい。そう言われて自分ならどう思うか。そうされて自分ならどう感じるか。子どもの心を自分に置き換え、考えながら見つめることが年々増えていく。うっかり傷つけたときは、もちろん正直に謝ることだ。

物と情報があふれる今の時代には、失敗と反省を繰り返しながら、子どもの心に寄り添う子育てが、とても大切だと思う。



平成 26 年(2014 年)3 月発行  
滋賀県教育委員会